



真イエス教会

—東京・墨田教会

教会報

2003年1月号



東京教会：埼玉県所沢市上安松 341-1 TEL/FAX：042-994-8336

ホームページ：http://www.tjctokyo.com

E.メール：tokyo@tjc.org

墨田教会：東京都墨田区東墨田 1-5-10 TEL/FAX：03-3619-7233

2002年度東京教会信徒大会報告

Announcements

信徒大会報告

<教務>

1. 東京教会に在籍 87 名（前年 73 名）。
安息日出席率：54%（前年 57%）；
求道者：毎月平均 2～3 名
2. 年 2 回霊恩会開催。受洗礼者計 21 名。
 - ・ ゴールデンウィークを利用して墨田教会と合同の霊恩会。連合総会より派遣された黄誌新伝道者の協力の下。同時に責任者講習会及び宗教教育教員講習会開催。
 - ・ 12月13～15日、沈シメオン長老滞在期間を利用して東京教会にて。
3. 8月から横浜家庭集会開始の為、7月まで行われていた八王子、町田の家庭集会を暫時休止。しかし、千葉家庭集会は通常通り行う。
4. 金曜夜集会の出席率減少、及び墨田教会にて金曜夜の集会開始に伴い、東京教会の夜の集会は暫時休止。参加する者は墨田教会へ。
5. 10月に河南教会にて霊恩会開催。東京・墨田教会から教会奉仕協力の為 16名参加。帰途にて大阪教会訪問。
6. 洪煜培兄弟の指導の下、1月1日より東京・墨田教会のホームページ（中文版）開始。日本語版は作成中。
アドレスは：www.tjctokyo.com
7. 去年の目標であった“全家族が信仰に入る”はあまり達成できず。
8. 去年提案された学生霊恩会については、連合総会へ申請済み。来年実施予定。
9. 新年度の計画：①全家族が信仰に入る。②見失った羊を探し出す。

<総務>

1. パソコンの購入及び、ADSL の加入。
2. テープ録音から CD 録音に変更。→場所・費用の削減。管理の便益。
3. 教会門入り口にて看板設置（礼拝案内貼付）。屋外に下駄箱設置。
4. 去年提案された電話及び電子メール訪問は不十分。

<財務>

- ・ 2002 年度の財務報告

<婦人会>

1. 婦人たちの中で聖書を読む習慣がついてきた。
2. “全家族が信仰に入る”という目標→家庭訪問及び集会を行うのが困難。その為、各家庭で母親と子どもが父親を誘って一緒にお祈りする。
3. 婦人会出席率→良好。集会内容：証し、賛美歌、聖書を読んだ感想等。
4. 婦人会幹部
責任者：アピヤ執事、副責任者：関姉妹；財務：宮崎姉妹；記

録：竹花姉妹；炊事責任者：関谷姉妹、炊事副責任者：翁恵明姉妹（任期 4ヶ月）

<青年会>

1. 4月から集会時間を毎月第 1・3 に変更。
2. 参加者人数：平均 20～25 人。
3. 聖書勉強会と合併。方式：3人で 1 グループとなって進める。→多くの人が参加できる。聖書クイズによる復習。→良い効果が得られる。
4. 野外活動（年 3 回）
 - ・ 3月：新宿御苑にてお花見（墨田合同）
 - ・ 10月：所沢にてお食事会
 - ・ 11月：仙台阿部さん宅訪問（墨田合同）
5. 翌年の計画：
 - ・ 聖書を読む運動促進。
 - ・ 中国語入力教室設立。
 - ・ 1月1日よりホームページ（中文版）開設。近々日本語版増設予定。

<宗教教育>

1. 生徒数：15 名。完全週休二日制に伴い、4月から毎週行う。
2. 生徒遅刻の改善が必要。
3. 毎月第四土曜午前→子供の祈り会。11：30 開始。
4. 来年 3 月から青少年班新設。毎月第 1・3 週。1 限目：青年会合同賛美歌。2 限目：青年会と別集会。
5. 賞状の贈呈：生徒の長所を称えた賞状を各生徒へ。（生徒を励ます為）

<信徒の意見と提案>

1. 教会内で靴の整理整頓をきちんとする習慣を身に付けてほしい。
2. 教会に早く来た人から順番に前から座ってほしい。（遅く来た人が座れるように）
3. 誰かが会堂内でお祈りしている時は、他の人は静かにしてほしい。
4. 雨の日に教会の傘を借りた人は、忘れずに返してほしい。
5. 会堂内のスリッパは個人用もあるので、履く前に必ず確認してほしい。
6. 教会でピアノを教わりたい。
7. 聖歌隊を作って、病院や老人ホームへ行って讚美したい。
8. 新しい教会堂を早く建ててもらいたい。

<03年度 新責任者>

投票選挙により新責任者が以下の通り決定。

1. 教務：呉執事、林進。総務：李熙清、洪煜培。財務：アピヤ執事、姚成喜。
2. 会計監査：竹花兄弟、一瀬姉妹。
3. 婚姻紹介及び訪問組責任者：アピヤ執事、関姉妹。

☺ 呉 純恵 姉妹



2002年度墨田教会信徒大会報告

ハレルヤ主イエスの御名によって報告します。

まずは2002年度の教務、総務、財務の年間報告です。

弟、王朱愛姉妹、郭聯勇兄弟、郭聯政兄弟

受霊者：王雲雲姉妹、王和珠兄弟、高娟（求道者）

教務：

- 3月31日 新宿御苑において“お花見”東京・墨田両教会による行事で、参加者は35名でした。
- 5月3～6日 2002年度霊恩会を開催 連合総会から黄誌新伝道者、侯恩源長老、邵從命長老が派遣。
- 5月4日 木下先義兄弟、木下文子姉妹が執事に立職。
バプテスマ：阿部みねよ姉妹、陳佳怡姉妹、林齊平兄弟
受霊者：姚成喜兄弟、邱娟姉妹
- 7月28日 第一回横浜家庭集会所が開かれる。
- 10月20日 陳運水兄弟と木下芳姉妹の結婚挙式
- 11月2～4日 仙台の阿部郁男兄弟を訪問
- 11月～12月 連合総会から沈シメオン長老が派遣され、東京教会と墨田教会に駐在。

バプテスマと聖餐式特集：

- 8月7日 王和平兄弟
- 8月29日 王和平兄弟告別式
- 9月8日 木下シツ姉妹、朱明嬌姉妹、王芳芳姉妹、王雲雲姉妹、王孝平兄弟、張美玲姉妹、劉嘉誠兄弟、劉嘉信兄弟、渡辺鳳英姉妹
- 12月7日 王和珠兄弟、林華姉妹、王孝生兄弟、王秋霞姉妹、郭有堯兄

総務：

会堂内のエレベーターを撤去する工事。
賛美歌と福音小冊を50冊ずつ購入。

財務：

財務責任者木下典松兄弟が年間の収支報告、明細を提出。

次に2003年の新人事報告です：

財務監査役： 林遠明 兄弟、陳霞 姉妹

婚姻紹介係： 木下典松 兄弟、翁麗英 姉妹

青年会： 責任者：余和 兄弟、
副責任者：木下博敏 兄弟

婦人会： 責任者：王華清 姉妹、
副責任者：木下愛 姉妹
(以上の各担当者の任期は一年とする)

季節は移ろい、歳月は流れ、瞬く間に一年が過ぎました。私たちは自他共に認めるクリスチャンとしての自己の霊質を高め、救いの福音を世に広め、より多くの人たちが主の御名に帰せられますように。願わくは神様の導きと御恵みの中においてお守り下さい。

すべての栄光が天にいます神様に帰せられますように。アーメン

木下 直樹 兄弟

霊恩会の日々——東京教会

わが霊をあなた方の子らに注ぎ、 わが恵みをあなたの子孫に与える。
 彼らは水中の草のように、 流れのほとりの柳のように生え育つ。
 (イザヤ書44:3, 4)

二〇〇二年の年末、東京教会霊恩会前に念願の雪が降った。雪がまだ解けない中、この見知らぬ国で、私は新天地を開拓するように臨んできた。ここの教会、人や物事、及び神の国の福音を聞くことも含んでいる。

三日間の霊恩会は、まるで聖書の中の三部福音書のように目の前に浮かび、1ページずつ詳しく読んでいった。神の御前で、心を清くし、世の事を忘れ、ただ主の愛を思い、主の恩を顧みる。今まで神から頂いた恵みは数え切れないほどある。世の中の憂い、心中の傷口等すべては神の両手で撫でられて強くなり、長い航路の船長となり、風帆を揚げ、新たな信仰の旅路を急ぐ。

空の鞆のまま教会に入ったが、帰る頃にはいっぱいになって、この鞆の中に信仰の旅路に必要な霊の水と霊の食べ物でいっぱいになった。もしも、あなたが砂漠に彷徨っているならば、きっともう迷わないようになるだろう。なぜならば、歴史の本が証しているからだ。モーセはイスラエル人を連れて、四十年間荒野の中でさまざまな苦難を乗り越えることができた。それは神が時間どおり彼らに霊の糧を与えた為、彼らは約束のカナンの地に着くことができたのだ。霊恩会を開く目的はここにあり、霊的な意義は奥深いものだ。

一. 主題は多次元化で、信者にとって霊的に大きな収穫になった

沈長老と呉執事のあうんの呼吸で、一人は説教し、一人は通訳し、二人は自分たちの数十年の人生経験と豊富な霊的経験を持って、一つの問題に対し、様々な霊的観点から真理の奥義を分析してくれた。会堂の気分は、時には軽快な、時には尊厳な、又は人を思わせ、反省させ、電気にしびれるような瞬間もあり、又は心の共感を引き起こすようなことや、神からの力を得たようなこともあった。

沈長老による2ヶ月間の今回の伝道は、とても貴重な機会である。私たちはもう一度この三日間の勉強を思い出してみよう。<<霊に属す宴会>> <<霊的食べ物と霊的水>> <<真の教会の福音>>等、これらはきっとあなたにとって美味しい食物となり、切に真理を追い求めるあなたは本当に主イエスについていこうと決心できたのではないだろうか？

二. 十字架の上の救い

主イエスはもともと天の王であり、世の人々を罪から救うため、僕としてこの世に来られたが、迫害を受け、十字架に掛けられ、私たちの模範となられた。主イエスの3年半の伝道過程を振りかえ、イエスは弟子たちと一緒に最後の晩さんで、パンを取り、祝福してから手で裂き、弟子たちに渡して言われた、“これを食べよ、これは私の体である。”そして、杯を取って、祝福してから、弟子たちに渡して言われた、“これを飲め、これはあなた方のために流すわたしの血で立てられる契約である。多くの人を罪から救い出すのである。”

沈長老の祝福の下で、私たちは聖餐を受け、手の中に握っている葡萄汁とパンを見て、まるで、主が受難する時の事を見ているかのようだった。…イエスは十字架に掛けられ、血が十字架から流れてくる…

「十字架を誇る」「イエスの十字架」「イエスは我が為に」「我れ何をなして」等の賛美歌はオルガン伴奏により、メロディや歌詞に心を奪われ、神を感じるところが言葉を失わせた。

十字架の重みを感じ、十字架前の階段は、かん難や侮辱、復活、永遠の命で作られたのだ。キリストは、この苦難の十字架の信仰道を歩ききった。この道は、生と死の試練でもある。もしも、キリス

トの十字架を共に背負って歩むならば、肉体の涙と血を流すことがあろう。だが、主イエスが私たちに残した使命であるならば、私たちも勇気をもって受け入れたいと思う。

主よ、あなたは大勢の人々の中から私たちをあなたの子となるように選んで下さった。今日、各国から兄弟姉妹たちが集まり、あなたの御前であなたが受けた苦難を思い、この永遠の命を受けた。

沈長老の一つ一つの言葉は雷のようであった。神の恵はいかに大きく、神の恵みにいかに報うのか。もし、神に遣えるならば、あなたは自分自身を神に奉げることはできようか？種をまき、収穫が必要なところへ我々は行く。我々一人一人が、働き手となる重要な役割がある。

三. 心を合わせて、天にいる父から聖霊を追い求める

主イエスは天に昇る前に弟子たちに、エルサレムから離れないで聖霊が下るのを待ち、聖霊の力を得て、各地でイエスの証をするように言われた(使徒1:4~8)。そして五旬節の時、弟子たちが祈っていると、聖霊に満たされ、それぞれ賜れたもので異国の言葉で話すようになった。

聖餐式が終わってから30分程、聖霊を求める祈りがあり、沈長老、呉執事、木下執事により按手があった。

聖霊は私たちの信仰のため祈ってくれ、そして、私たちの心を強くしてくれるのだ。聖霊の祈りは神の言葉を解釈してくれる。光を発し、私たちの心を開けてくれ、もの事の本質を見抜くことができる。だから、聖霊を追い求める同胞たちは、切に祈り、雪がまだ解けてない真冬の中、教会堂は暑くなり初夏のようだった。使徒行伝2:2に書かれているように：「突然、激しい風が吹いてきたような音が天から起こってきて、一同が座っていた家いっぱい響きわたった。」教会は切切な祈りの声に満たされ、主の霊による泣き声、霊の言葉、又は聖霊の喜び声があり、顔に汗いっぱいの人や涙を流している人もいた。使徒時代の教会の信者数は一日に3千人増えたことから、聖霊が共に働いていたことが分かる。

親愛なる天にいる父よ、今日も私たちは心を合わせて共に祈る。どうか引き続き日本の信者たちをも顧みられるように。

四. 共に食事をする

長方形のテーブルの上に美味しそうな料理が並び、黄色の瓜、白い大根、緑色野菜等、みな姉妹たちの自家製だ。本場の韓国料理や、インドのカレー、日本料理、中華まんじゅう、果物等毎回違う風味の料理が揃い、大変おいしいご馳走だった。暖かいお茶を手にし、こころが暖まった。炊事担当の姉妹たちに感謝すると同時に、マタイのように主に奉仕する愛の心を、どうか主が記念して下さるように。

五. 結語

蛾は身を投じる瞬間のために、黙々と働く。クリスチャンも同じで、もしも主に奉仕する気持ちがあり、自ら僕となり、塩のように、また光のようになれば、生命はきっと輝くだろう。波瀾満潮を求めたくないが、どうか、黙々と神に一生を奉げる人生が送れるように。

二〇〇二年の年末に東京教会の霊恩会が円満に終わりを告げた。もう一度神に感謝の祈りを奉げ、神の御前に心を傾け、カナンの婦人のように、どうか神が我々の祈りを聞いてくださるように。また神が我々の信仰を強くして下さるように。すべての栄光、讚美は天にいる真の神に帰するよう…。アーメン！

主にある兄弟

——大阪河南教会霊恩会に参加して——

主イエス様の御名により大阪河南霊恩会についてお話をさせていただきます。

今回は10月12日～14日まで河南教会の霊恩会に参加する機会に恵まれたことを感謝します。

東京から大阪迄の長い道のり、運転をしてくださった兄弟姉妹はさぞ大変だった事と思います。この場を借りてお礼申し上げます。

わたしは1993年にホノルルの真イエス教会でバプテスマを受けました。

その後、94年からはニューヨーク州の隣りにあるニュージャージー州に住んでいましたのでわたしの中での真イエス教会の歴史はほとんどがアメリカにありました。

さて、初めての河南教会ですが、外からは普通の家ようですが、2階には小さいながらも教会堂があり、屋根も高くとってあり、清潔で可愛い教会でした。

河南教会は住宅街の入り組んだ場所にあり、私たちの乗って行った車が一台ギリギリで通れるような道路で、このような場所ではさぞかし、まわりからの苦情などもあるのではと心配し、河南教会の執事に尋ねたら、今まで何の苦情もないとのことでした。

このような狭い住宅事情と昨今の世の中の状況を考えても神様の恵みが河南教会を守ってくださっていることを強く感じました。

初めてお会いする河南教会の兄弟姉妹も以前から知っているようにとても簡単に溶け込むことが出来ました。

これは執事もおっしゃっていた様にわたしたちはぶどうの木であり、みな主によってひとつの肢体で

あるということの証であると思います。

わたしはバプテスマを受けた93年の夏にカリフォルニアのNYTSに参加中、聖霊を受けました。バプテスマを受けてからは聖霊を求めることを重点に祈っていました。

それほど聖霊を受ける事の重要性を理解して居らず、規則的に求めていました。

しかし、すこしづつ聖霊に満たされていくこととは何であるかが解り始め、それがどんなに大切なことかも聖霊自信が時間をかけて教えてくれるようになりました。

霊恩会などでいろいろな教えを聞き、勉強しても実際に心に感じ、体験することが

出来るということは聖霊による助けが非常に大きいと改めて感じました。

そしてその聖霊を守り、主の導きに従うためにも祈りを大切にし、教えを正しく理解することの重要性を益々、強く思いました。

それと同時に、わたしたちは常に悪魔にも狙われていることも注意し、目をさましていないといけなとも感じました。それは自分も含め人間自身はとても弱いものであることを認識するということだとも思います。

世界中、真イエス教会は場所によって特色は多少あるけれど、真理はひとつで変わらぬものであると感じました。

これからも、神様の導きに従い信仰による生活を守り、一人でも多くの方が救われることを願います。

今回は大変、勉強になりました。この機会を与えてくださったことを再び感謝します。

☞ 一瀬 直美 姉妹

——仙台訪問の感想——

私は仙台に行ってきたたくさん自然とふれあってきた気がします。みんな阿部さんの畑から野菜をとってバーベキューをしました。楽しかったです。あと動物もたくさんいました。阿部さんの家の周りには犬、牛、にわとりがいました。その中でも一番びっくりしたのは牛でした。絞った牛乳も飲みました。みんな『おいしい!』と言っていました。あと、にわとりのスープを作っていて、みんなたくさん食べていました。少し怖かったです。

☞ 木下 由美 姉妹

——仙台へ行きました!——

11月2・3・4日に仙台の阿部さんの家に墨田教会と東京教会の合同で訪問しました。主な活動は二日目からでした。阿部さん宅の前には小さいながらも畑があり、ニワトリもいました。山の中で暮らした事の無い私たちにとっては、とても新鮮な感じがしました。お昼には、畑で取った野菜を使ってバーベキューもしました。とてもおいしかったです!それから台湾から来た沈西面長老も一緒に参加した様々なゲームもとても楽しかったです。3日目、お世話になった阿部さんの家を出発して、帰り途中に日光に寄りました。長い長い“いろは坂”を登り竜頭の滝を見ました。山の景色も、竜頭の滝もとてもきれいでした。最後に3日間ものあいだ自宅を提供してくれた阿部さんの家族の方々に感謝をしたいと思います。また平安無事に道中の私たちを見守ってくださった神様にも感謝をしたいと思います。

☞ 木下 博敏 兄弟

仙台訪問記事

青年会の計画と墨田教会の協力を得て、感謝な事に11月2日から4日にかけて、東京と墨田の2軒の教会、合わせて25人が、それぞれ3台のワゴン車に乗って、広々とした目的地・仙台にいる阿部兄弟の家に行くことができました。

11月2日、東京教会で安息日の礼拝が終わった後、午後4時頃に墨田教会に向かい他の人たちと合流しました。墨田教会の兄弟姉妹だけでなく、台湾から日本に来たばかりの沈シメオン長老も一緒に参加しました。それから墨田教会で暫く待機した後、午後6時頃に目的地・仙台へ向かいました。

しかし、阿部家に到着した時はすでに夜の12時過ぎでした。つまり、東京から仙台まで車で（途中的那須高原での30分間の休憩を含めて）、計6時間余りかかりました。こんな長時間車に乗ったので疲労を感じましたが、運転を担当していた兄弟姉妹のことを考えると、疲れたという言葉は言えませんでした。この場を借りて運転をして下さった兄弟姉妹にお礼の言葉を述べさせていただきます。また主がこの方たちの愛を記念して下さいますように。

阿部さんが準備して下さいましたおやつ（甘いチマキ）を食べた後は、翌日は早起きのためにお祈りをした後すぐに就寝しました。こうして平安無事に、また順調に一日目が過ぎました。

阿部さんの家に着いた時に最初に感じたことは、家が大きいのということでした。25人の参加者と阿部さん一家5人の計30人が寝る所は全く問題はなく、また狭いという感じもありませんでした。私は日本に来て2年半以来初めてこのような大きな家に泊まりました。これもとても貴重な体験だったと思います。

二日目の11月3日―日曜日、前日は長旅をし夜遅くに寝ましたが（だいたい夜中の1時頃）、みな朝は早く起床しました。予定の時間よりもだいぶ早かったです。これはおそらく、山が都市に住む私たちに新鮮さを与えたのでしょう。皆は再び寝ることを惜しんで早く起きて森林浴をし、神が私たちに賜った大自然のエッセンスを吸収しました。

朝食が済んだ後、活動が始まりました。まず、郁恵姉妹が準備した歌の練習です。これは活動前の準備体操と言えるでしょう。その次は煜培兄弟と桜姉妹によるゲームです。色々なゲームをして遊びましたが、わたしの中で一番印象的だったのが、スーパージェスチャーゲームです。なぜかと言うと、このゲームは年齢差を問わずみんなが参加でき、そればかりでなく、遊んでいる間みんなの笑い声が途絶えませんでした。その時わたしは、いわゆる“主にあっての一家族”という感じがしました。

この大家族の中には年齢、国籍の区別がなく、神の子であればこのように簡単に皆と一つになることができます。これが本当の幸せではないでしょうか？

室内活動の後は、戸外でのバーベキュー活動でした。山の上の天気はとても寒かったのですが、皆の心の中は

とても暖かかったのです。なぜなら、食べる物があつたばかりではなく、また見て楽しむことができましたからです。それは、近藤姉妹と喜恵姉妹が臨時に組んだ山地コンビが、日本では百年に一度しか見られないと言ってよいほどの貴重な「台湾山地の舞」を皆のために披露しました。この楽しさは紙と筆では表現できるものではなく、自ら体験した人たちだけが、主の一家族の和やかな雰囲気を感じたと思います。もし形容するならば、使徒時代に皆が主のために働いて、おいしい物も楽しい事も全て共に分かち合い、利己的ではなかったような状況です。この場を借りて阿部さん一家にお礼の言葉を述べさせていただきます。なぜなら、阿部さん一家はちょうど使徒時代の状況と同じように、いい物は決して惜しまなかったからです。私たちは満足して楽しかったのですが、私たちが来たことによって阿部家に多大な迷惑がかかりました。特に野菜園の野菜はいなごの大群が来たかのように、目も当てられない無惨な姿になってしまいました。

午後は予定通り温泉へ行きました。温泉に入った後は気持ちよく、疲れを全く感じませんでした。これもおそらく温泉の効果でしょう！夕食後は、少し休憩してすぐに夜の集会が始まりました。まず、郁恵姉妹が賛美歌を教えた後、沈シメオン長老から私たちに励ましの言葉を頂きました。“すでに肉体的な満足を得たわたし達は、精神的にも霊的食物によって満足すべきだ”と。これにより、心身共にみんなの得が高められました。このようにして平安無事に、また順調に二日目も過ぎました。

楽しい時間はいつも過ぎるのが特に早いもので、まだ仙台に着いたばかりという感じなのに、もう阿部さん一家とお別れの時が来てしまいました。三日目の朝は朝食を済ませた後、皆は分かれるのが惜しいという思いで阿部さん一家とさよならをしました。

早くまた再会できることを期待して、阿部さん一家の皆さんの愛の込められた御もてなしに再び感謝申し上げます。どうか主が彼らを記念して下さいますように。

東京へ帰る途中は、時間がまだ早かったため日光へ回り道しました。かの有名な「日光猿軍団」は見られませんが、道中、えさを探し求めていた猿と美しい紅葉を見ることができたので、無駄ではなかったと思います。

三連休の最後の日ということもあって、高速道路はずっと渋滞でした。ですから、私たちが墨田教会に戻ってきた時はすでに夜でした。墨田教会で感謝の祈りをささげた後、皆それぞれ帰路につきました。帰る途中、私はずっと考えていた事は、今回の訪問活動は順調に円満に終止符を打てたということです。主の御守りに感謝するだけでなく、婦人会のお母さん方や呉執事夫妻にも、この三日間私たちに全力で協力して下さいましたこと、また私たちがこのように楽しい時間を過ごせた事を心から感謝致します。主が皆様の愛を記念して下さいますように。そして次回の活動は更に多くの兄弟姉妹と共に成功させて主の一家族を味わうことができることを期待します。

主のうちの結婚においてあるべき認識と観念

沈 シメオン長老

一、主のうちの結婚の要点

1. 結婚は神が合わせたものであり、また神からの祝福を賜わる。両方が互いに相談して結婚が成立する。しかし、高い結納を要求してはならない。
2. 両方の親は同じ信仰の青年を選んで結婚させる。決して未信者を選ばないこと。
3. 教会内での婚約の場合は、慎重に考慮し、結婚までの期間を延ばし過ぎないが良い。適当なのは、三ヶ月以内に結婚すること。
4. 同じ信者同士の結婚は主の御前においてとてすばらしい事である。結婚した後は、夫婦は仲良く助け合い心をつにして、白髪になるまで夫婦でいる。



陳運水兄弟・木下芳姉夫婦（墨田教会）

二、聖書からの教訓

1. すべての人は結婚を重んじるべきである。また、寝床を汚してはならない。神は不品行な者や姦淫をする者をさばかれる。（ヘブ 13：4）
2. 一夫一妻を守り、誰もが必ず結婚すること。神はアダムを深く眠らせてそのあばら骨の一つを取って女（エバ）を造った。そして二人は一体となった。（創 2：18～23）
3. 同じ信仰のある者と結婚すること。義と不義となんの係わりがあるか。光とやみとなんの交わりがあるか。（II コリ 6：14）。
4. 信者は貞操を守り、聖潔を保つ。また、淫乱を避けること。（マタ 19：9）
5. 彼らはもはや二人ではなく、一体となる。だから、神が合わせられたものを人は離してはならない（マル 10：6～12）。



李熙清兄弟・翁小玲姉夫婦（東京教会）



ハレルヤ！主イエス様の御名によってお証しさせていただきます。

神様のお導きによって、私達が一週間をまた平安無事に過ごせたことに感謝致します。また、私達にこのような信仰の体験を分かち合える機会を下されたことに感謝致します。

聖書はこう教えています。“私達が信じていること、聞いたことは全て日常生活の中で実行しなければならない”。私達が真理において徳を高める場合、一つめにすべきことは、聖書をたくさん読むことだけでなく主のために志を立てることです。

二つめは聖書の教えをよく聞いて、よく考えて実行することです。聖書はまたこう教えています。“神の言葉を聞いた後は、苦さが甘さへと変わる”。どうして苦くなるのでしょうか？なぜなら、私達は体験し、犠牲し、実行しなければならないからです。主イエス様はかつて弟子たちに言われました。「だれでも私についてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、私に従ってきなさい」（マタイ 16：24）。

神の教えを実行することは決していつも順調ではなく、また十字架の苦しさを負うことに向き合わなければなら

い事が解ります。しかしながら、聖霊の導きと助けによって、私達は一つ一つ神の教えを守ることができ、サタンの試みに勝つことができます。このようにして、ますます神の言葉に力が満ちている事が体験出来るのです。

また私達の心を満たされるだけでなく、毎日の生活において神様が共におられ守って下さり、祝福を賜って下さるという事を信じる事が出来ます。

姉妹の皆さんも私と同じような体験があると思います。まず先に一つ目の証を致します。

何日か前に、私の主人は旅行のポスターを見ました。それは一泊二日の旅行でした。彼はすぐに参加の申し込みをしました。私は彼が予約した日がちょうど安息日であったのを見て、彼に安息日は教会に行くから他の日に変えられないかと相談しました。

しかし、彼は自分の考えがあった為、私の意見を受け入れようとはしませんでした。そこで、私はこの事をお祈りの時に念頭に入れました。お祈りの時、私は神様にこう祈りました。「神様！私はあなたの命令に背きたくありません。しかし主人の決定はあなたもご存知の通りです。どうか私をお導き下さい。」あの時はずっとこの事のために神様に祈り求めました。しばらくして、通知が来ました。それは「今回の旅行は参加者の人数不足のためキャンセルと

なりました。」という内容でした。私はすぐにこれは神様のお導きだと感じ、その御守りに感謝しました。また暫くして、主人が旅行のポスターを見て申し込みました。そして今回も安息日とぶつかりました。私はまた主人に日を改めることは出来ないかと相談しましたが、主人は前回と同じように自分の意見を押し通しました。ですから、私は今回も神様にこう言いました。「神様！安息日は神の聖日ですから、私は安息日の集会を止めることはしたくありません。安息日を守れば最大の祝福が得られるだけでなく、心も霊も喜びが得られるからです。」その後、私は神様に私の祈りが聞き入れられるようずっと求めました。そして暫くすると旅行の通知が来ました。私はこれを見た時、非常に驚きました。それは、やはり「人数不足」と書いてあったからです。暫く時間が経った後、最後は安息日とぶつからない日に決めました。この二度にわたって私の頭を悩ませた事はこのように不思議な具合に解決しましたが、これは単なる偶然ではありません。それは神様の憐れみと御働きによるものです。二度にわたる神様の御恵みが私に祈りの力を再度体験させて下さいました。

さて二つ目の証は、今年の1月20日ちょうど異邦人の祭りの時の出来事です。

私の姑はもうすでに朝のお供え物を作り終え、夜の方はまた後で準備すればいいという状態でした。しかし姑は、昼間外出するので遅く帰ってきたらお供え物の準備に間に合わないかもしれない為、私に代わりに作っておいて欲しいと言って私に作り方を教えました。その時、私も自分でも変な感じがし、姑が言った日本語は解ったような解らなかつたような感じでした。ただ解ったことは、今夜、私にお供え物を作って欲しいという事でした。その後、私はこの事をお祈りの中で覚えて神様に守って下さるように求めました。この日一日はこのように順調に過ごせました。夕食の時間になっても私はいつも通り心穏やかでした。何も考えずに簡単な夕食を準備しました。しかし、食事をしようとした時に姑は私に「お供え物はどこにあるの」と聞きました。私は少し、ぼかんとすると今朝、姑が私に頼んだことを急に思い出しました。私はすっかり忘れてしまったのです。私は「作っていません」と答えました。この時、姑は少し怒りましたが、結局彼女が自分で台所に行って作りました。私は神様に感謝の気持ちでいっぱいでした。神様は私の心を守って下さり、私に姑が頼んだ事を自然に忘れさせて下さいました。そしてそれらの触れるべきでない物に触れさせませんでした。

以上、話しました二つの証は、もしかしたら皆さんにとっては大した事ではないかもしれませんが、しかし私にとってはとても重要な体験でした。なぜならこの二つの出来事は、もし肉に従っていたら、私は神様に求めることも祈ることも必要なく、彼らの決定に従っていればよかつたからです。また、そんなに煩うこともなかつたのです。ましてや旅行に行くことは得難い楽しみではありませんか！しかし、私は心の中で葛藤していました。クリスチャンたる者にとって、これは信仰において避けては通れない課題なのです。私達は何をするにしても聖霊に従い、またその導きに頼らなければなりません。どんな難題にぶつかってもお祈りをすれば、神様は私達を導いて下さいます。一週間前、私は婦人会の証し会で“何を証したらいいだろう？”と考えていました。私自身が自ら体験したものは幾つかありましたが、話してもあまり感動がなさそうなので、みんながこれを聞いたあと果たして益になるだろうかと思案していました。しかし私はまた、こう考えました。「私の証しは平凡でありきたりかもしれない。しかし私達は神様の名に栄光を帰すために、志を立て力を尽くして証

しをするのだから私も話そう。神様は私達が考えていることを全てご存知なのだから、私達にこのような機会を与えて下さったのだ。また、神様は私にこんなに多くの恵みを与えて下さったのだから、私はなおさら神の慈愛と大能とをここに居る姉妹達と分かち合うべきだ。」と。

続いて、三つめの証しをしたいと思います。これは先週起きた事で、本当に不幸中の幸いでした。神様は彼の慈愛で私の孫を御守り下さいました。何日前か、私は嫁に電話をして最近はどうしているかと聞きました。すると嫁は突然、感謝な事に神様は小さい孫を守って下さったという話をしました。そして彼女はそのいきさつを私に言いました。それは日曜日の午後で台湾時間は5時過ぎでした。嫁は孫を連れて私の息子の会社に行きました。その会社の外は大通りでした。嫁は孫を会社にいる息子の傍に連れて行った後、会社の向かいへ物を取りに行きました。彼女はすぐ戻って来るから問題はないだろうと思い、私の息子に孫の面倒をみるようにとは言いませんでした。しかし嫁が戻ってくると、嫁がちょっとの間いなくなった際に孫はもう会社からいなくなってしまうました。そしてどこへ行ったのかもわかりませんでした。

二人はすぐに外を見ると、突然外から大きな音が聞こえてきたので慌てて外に飛び出して行きました。なんと私の孫が車に跳ねられたのです。孫は母親がいなくなったので外に出て探しに行ったのでした。孫は二方向から車が来るかどうかなど全く見ていませんでした。そしてちょうどその時、一台の車がスピードを出して走って来ました。当時、運転手は子供が飛び出して来たのを確認しましたが、ブレーキをかけるのが間に合わず車のサイドミラーは直接小さな孫の頭を直撃しました。衝撃はかなりひどく、サイドミラーも割れてしまったほどです。当時の衝撃がどれだけひどかつたかが想像できます。その時現場を目撃した人も非常に驚き、みんなかなりの重傷だと思ったそうです。孫は病院に運ばれて行きました。脳に異常があるかもしれないので最初にレントゲンを撮って検査しました。検査の後お医者さんは「頭部には異常がなく、手にかすり傷があるだけで問題はありません」と言いました。お医者さんはまた続けて「もし三日経っても異常がなく嘔吐しなければ心配はいりません」と言いました。嫁の話によると二日目、孫のこめかみの横には青あざがあったそうで、これはまさしくぶつかった所でした。それから現在に至るまで孫には異常がありません。本当に本当に神様に感謝致します。もし神様の御守りがなかつたらその結果を想像するにも耐えられません。人の命は神様の手中にあるのですから私達は神様に感謝すべきです。この大きな恵みは私の孫に賜りましたが、全てが神様の素晴らしい御旨であると思えます。神様は孫を通して御名に栄光を帰せられました。そして私にも神様の偉大を証しする機会を与えて下さいました。私は嫁にもこの証しをする時は神に栄光を帰すようにと言いました。今日話した証しが、皆さんに益になることを願います。そしてこれらの聖句を以てお互いの励ましの言葉としましょう。「神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである。」(詩篇46:1)。「何事をも思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈りと願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。」(ピリピ4:6)。

編集者：これは関谷姉妹が東京教会の婦人会で話した証しです。関谷姉妹は日常生活において神の愛を敏感に感じ、そして心にきちんと記しています。また機会がある時には神の御恵みを証ししています。これは私達が学ぶべきところですよ。

関谷 美香 姉妹 証し/姚 成喜 兄弟 整理

助祷

そこで、まず第一に勧める。すべての人のために、王たちと上に立っているすべての人々のために、願いと、祈りと、とりなしと、感謝とをささげなさい。それはわたしたちが、安らかで静かな一生を、真に信心深くまた謹厳に過ごすためである。
(IIテモ2:1~2)

◇東京教会◇

- ★ 東京教会の新しい会堂建設の為、心を一つにして主に祈りましょう。
- ★ 横浜と千葉の家庭集会において、より多くの求道者が参加出来ますよう、心を一つにして主の導きを求めましょう。
- ★ 引き続き、和智紀子姉妹及び求道者の近藤おぼさんの為、病気が完全に回復できますよう神様に祈りましょう。
- ★ 教会から遠く離れた所に住んでいる兄弟姉妹たちの為、どうか神様が彼らの信仰を守って下さいますよう祈りましょう。
- ★ 菊池恵子姉妹のご主人が長い間神経痛を患っている為、助祷しましょう。どうか神様が彼の病気を癒し、また一日も早く信仰へ導いて下さいますように。
- ★ 日本の真イエス教会の為に祈りましょう。どうかそれぞれの教会がより団結し、教会の仕事が発展しますように。
- ★ 新しく選ばれた教会の責任者たちの為助祷しましょう。どうか神様が彼らに知恵を与えられますように。

◇墨田教会◇

- ★ 教会の発展と各団契のために助祷しましょう。神様の福音が広く伝えられ、その羊が日々増えられ、主の御名が栄えられますよう、どうか神様の霊が自ら導いて下さいますように。
- ★ 墨田教会が宗教法人を申請するために助祷しましょう。どうか私たちが行おうとするすべての事が神様の御旨に合いますように。
- ★ 金曜日の夜の集会のために助祷しましょう。どうか神様の導きがありますように。
- ★ 宗教教育のために助祷しましょう。どうか神様が自ら小羊たちを養い、たくましく成長させ、将来神様に使われる器になれますように。
- ★ 王和平兄弟の一家のために助祷しましょう。どうか神様が自ら彼らを慰め、導かれますように。
- ★ 求道者の渡辺夫婦の為、病気が完全に回復できますよう神様に祈りましょう。

記事

- ◎ 10月5日、東京教会の婦人会たちは呉正恵兄弟と綾子さんの婚姻のお祝いに、ささやかな食事を準備した。
- ◎ 10月12～14日、河南教会で霊恩会が開かれ、東京教会と墨田教会から計16名が参加。
- ◎ 10月19日、東京教会の青年会は所沢のあるレストランでお茶会を開いた。20名が出席。
- ◎ 11月2日の晩、東京教会と墨田教会の信者25名が仙台にいる阿部兄弟一家を訪問。11月4日の午後帰宅。
- ◎ 11月と12月の二ヶ月間、連合総会から沈シメオン長老が派遣され、東京教会と墨田教会に駐在された。
- ◎ 12月13日の午後から15日の午前にかけて、沈長老の協力により、東京教会で霊恩会が開催された。
- ◎ 東京・墨田教会の新しいホームページ（中国語版）が2003年1月から正式に開始した。日本語版は作成中。アドレス：www.tjctokyo.com。どうか多くの友達や兄弟姉妹たちに見てもらい、色々な意見を出して下さい。

おめでとう

- ◎ 10月20日、墨田教会にて陳運水兄弟と木下芳姉妹の結婚式が行われた。
- ◎ 12月1日、東京教会にて李熙清兄弟と翁小玲姉妹の結婚式が行われた。